

ちぐさ



CHIGUSA

戸板女子短期大学同窓会千草会

Vol.64

校訓

知 好 樂

子曰く

之を知る者は

之を好む者に如かず

之を好む者は

之を楽しむ者に如かず

論語（雍也第六）

校訓 知 好 樂

ものごとはすべて対象を「知る」ことから始まる。「知る」ことによって「好き」になれる。対象を知って好きになり、はじめて人は「楽しみ」ながらその本質をつかむことができる。

『戸板学園百周年記念誌』より

CHIGUSA

Vol.
64

ちぐさ

戸板女子短期大学同窓会千草会

目 次

表紙絵 押し花絵「陽光」

被服科15回 田村 篤子

表紙 (2) 校訓 知好楽

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 2 ご挨拶 私に出来ることを考える | 会長 小林 操子 |
| 3 令和の時代の新たな「戸板ブランド再構築」 | 学長 小林 千春 |
| 一英語教育改革を一例に— | |
| 4 服飾芸術科の現状について | 服飾芸術科 学科長 小泉きよみ |
| 5 我々が描く在学生の将来像に向けて | 学長補佐・図書館長 食物栄養科・総合教養センター
教授 吉川 尚志 |
| 6 グローバルな教育をめざした
国際コミュニケーション学科の歩み | 国際コミュニケーション学科
学科長 佐藤 美保 |
| 7 栄養士の魅力 | 短大事務局長 坂 勇次郎 |

人物紹介

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 8 好きなことを思いっきり楽しむ | 被服科42回 多久和優美 |
| 9 食で世の中を明るくする | 生活科51回 木下 瑠里 |
| 10 小野一成先生を偲んで | 会長 小林 操子
元図書館司書 佐藤 良子 |

広がる輪

- | | |
|--------------------------|--|
| 11 お便りコーナー | |
| 14 交流会報告 | |
| 北部九州支部・北海道支部・福島県支部・宮崎県支部 | |
| 支部紹介・クラス会 | |
| 16 戸板栄養士会だより | |

かんたんレシピ

- | | |
|---------------|---------------|
| 17 ひとり分の楽々ごはん | 食物栄養科5回 井上 廉子 |
|---------------|---------------|

学園だより

- | | |
|-------------------|--|
| 18 TOITA Fes 2019 | |
| 20 インターンシップ | |

会務報告

- | | |
|----------------------|--|
| 21 行事報告・会計報告・奨学生 | |
| 24 悼む・永眠者 | |
| 表紙 (3) 入試・広報部からのお知らせ | |

表紙



押し花絵「陽光」

朝の光が差し込み、窓辺のお花に降り注いでいます。
鮮やかな花々に元気をもらい、
今日一日頑張ろう、そんな思い
を込めて作画しました。
花材 カラー、ガーベラ、雪柳

裏表紙



押し花絵
「イメージチェンジ」

台紙に柄物の洋紙を使用し、ち
ょっと違ったデザインにトライ。
お花を軽やかに配し、楽しげに
舞うイメージを表現しました。
花材 カラー、紫玉葱、アスト
ランティア、プリムラ、
ラセンイ

庭先、道端、お花屋さんと常に
草花に気をとめてしまいます。
摘んだお花は乾燥マットに挟み、
一週間ほど重しをしておくと、
自然な色のままの押し花ができ
ます。それらを使いイメージを
膨らませ作画していきます。



千草会会长
小林 操子



ご挨拶 私に出来るることを考える

います。

昨年の五月、新天皇の即位をお祝いし新しい元号を迎え、心新たにスタートをいたしました。しかし、またしても大きな災害が各地にもたらされた一年であつたと痛感し、日本は災害国であることを

まざまざと認識させられました。まだまだ、復興半ばの地域も多く、ニュースを見る度に皆様のご健康と一日も早い復旧を願わざにはいられません。災害は、日本のみならず世界規模で多発しており、その原因は地球環境の変化や温暖化が叫ばれております。スウェーデンの十六歳の少女、グレタ・トゥーベリさんが、九月二十三日にニューヨークの国連本部で開かれた「温暖化対策会議サミット」に招待され、気候変動が緊急事態であることを堂々と訴えた姿は、記憶に新しく思い出されます。美しい自然と未来に続く地球を守る大切さの深い意味を噛みしめて、今自分に何が出来るのかを考えさ

せられた年でもありました。明るい話題としては、九月から十月にかけてラクビーW杯が日本で開催されました。日本チームの大躍進に、私のようなにわかファンを含め大いに盛り上りました。なかでも日本チームが用いた「ワントーム」のフレーズは、一つの集団をまとめる大切な要素となり、ラクビー以外にも様々などころで使われました。仲間を大切にする日本人の心に響く言葉です。千草会を「ワントーム」と捉え、同窓生と共に発展していく言葉としてちょっととお借りしたいと思いま

た。

また、夏には東京オリンピックが開催されます。先の一九六四年の東京オリンピックの時には高校生でした。テレビの前で日本選手を熱心に応援しながらも、他のアスリートたちが活躍する姿にも心躍らせ、広い世界に目を向けていつたことが思い出されます。メダルを目指し、厳しい鍛錬と強い精神力で真摯に競技に挑む姿は、見るものを感動させてくれます。その感動に出会える夏を今から楽しみにしております。

千草会会員の皆様には、お変わりなく健やかにお過ごしのことと拝察申し上げます。平素は、同窓会千草会のためにご支援・ご協力を賜りまして御礼申し上げます。

今年度の千草会を振り返りますと、まずスタートは二年任期の幹事改選の年となり、昨年の二月に旧幹事の皆様に継続お願いのハガキを送らせていただきました。その結果、八十三・三%の幹事さんが引き続きお受けいただき、感謝申し上げます。また、新たに幹事をお受けいただいた方も多数おり、大変心強く思っております。六月の幹事会では、千草会の運営を担う常任幹事も承認され、会長には続けて私が就くことになりました。微力ではございますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、千草会としての大きな行事はございませんでしたが、六月に北部九州支部、北海道支部、十

月に福島県支部、宮崎県支部の四支部会が開催され、遠方に住む同

窓生との交流で賑やかな年になりました。私は会長として初めて四支部会への参加をいたしました。どの支部会でも会員同士の温かい交流とともに、同窓生としての絆と母校への深い思いに感銘を受けました。また、役員の方々の支部会を開催するまでの尽力には、頭が下がる思いでいっぱいになりました。しかし、残念なことは役員の方々の努力にもかかわらず、参加者に若い卒業生が見当たらなかったことでした。お仕事や子育てなどで時間のやりくりが難しい時期とは存じますが、年代や学科を超えての先輩たちとの交流は、他では得られない有意義な時間であると信じております。次回には、一人でも多くの卒業生にお目にかかり、活躍しているお姿や率直な声をお聞かせいただきたいと願っております。各支部会の様子は、今号の交流会報告欄（十四～十五ページ）に記載されておりますので、是非お読みいただきたいと思

います。

また、夏には東京オリンピックが開催されます。先の一九六四年の東京オリンピックの時には高校生でした。テレビの前で日本選手を熱心に応援しながらも、他のアスリートたちが活躍する姿にも心躍らせ、広い世界に目を向けていつたことが思い出されます。メダルを目指し、厳しい鍛錬と強い精神力で真摯に競技に挑む姿は、見るものを感動させてくれます。その感動に出会える夏を今から楽しみにしております。

四月より新しい年度が始まります。これからも同窓会千草会へのご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひ申しあげます。皆様の日々の生活が穏やかありますことを願つております。（被服科十八回）



学長

小林 千春



令和の時代の新たなる 「戸板ブランド再構築」 —英語教育改革を一例に—

千草会の皆様には、平素より本学の発展に心をお寄せいただき、ご支援、ご協力いただき厚く御礼申しあげます。昨年四月より四年目の学長職を拝命し、責任の重さをひしひしと感じながら、日々の業務を務めさせていただいております。

教職員の不断の努力の甲斐あつて、短期大学への社会の逆風にもめげず、本学へは倍率がでるほど

の志願者があり、文字通り選抜ができる状況を維持しております。

なかでも、東京から離れた地域、

北海道から九州、沖縄まで幅広い

地域からの出願者があることは、

優秀な卒業生を社会に輩出してき

た一八〇年におよぶ本学の長い歴

史と伝統の賜物と、卒業生の皆様

に感謝申しあげます。

さて、令和の時代を迎えて、日本

の教育改革も急速に進んでおりま

す。高大接続教育の一環で入試改

革も行われ、すべての入試で見直

しが行われる中、初等、中等英語

教育においての四技能の充実が遅

ればせながら徹底されようとして

おり、大学における入試にも反映すべく、文部科学省からの指針を受け本学でも検討を重ねております。この英語の四技能ですが、これは、創立一一五年を記念して策定した Toita's 7 Promises の中の、Communication と Fairness に深く関連しております。

昨今、本学の近隣のコンビニエンスストア、オフィスビル、工事現場等で、外国人の方々が日本人の中に溶け込み仕事をしているのをよく見かけます。コンビニエンスストアでは、時間帯によって、流暢に日本語を話す外国人店員だけでも、運営されていることもあります。

新しい元号「令和」ですが、英語では、“beautiful harmony”と表現されています。グローバル化が急速に進む令和の時代は、外国人と豊かなコミュニケーションができる人材が必要になります。豊かなコミュニケーションとは、決して流暢に言語を話すことのみを意味しているわけではありません。

国際コミュニケーション学科では、早くから英語の四技能教育をカリキュラムに組み入れてきており、特に高校までに不足していたスピーキングとリスニングに力を入れてきました。また、現在では、学生が選んだ「キャリアゼミ」に沿って、卒業後就きたい業界を視野にいれ、「Business Conversation」、「Airline・Airport」、「Business Conversation: Hotel」など、その業界で即戦力となる英会話力が身につく授業を取り入れています。

創立者、戸板閔子先生は、明治の時代にいちはやく、女性の経済的な自立を唱えた先駆者の存在です。本学は常に時代の先を読み、社会の流れを敏感に捉え、社会が必要としている人材を育成する学府として存在しなければならないとした。本学は常に時代の先を読み、授業を通して、学生たちは英語を使つて働く姿を想像し、勉学へのモチベーションを高めていきます。

最後になりますが、千草会の皆さんにとっても、令和の時代が美しく調和に満ちた日々になりますよう、心からお祈り申しあげます。



服飾芸術科 学科長
小泉 きよみ



服飾芸術科の現状について

同窓会千草会の皆様、本学に対してしまして平素は温かいご支援を賜り感謝申し上げます。

服飾芸術科では、毎年の学生募集も順調で安定的な在籍者数の確保に至っております。現在では一学年、二学年とも四クラス編成にて授業運営に取り組んでおり、各クラスにはクラスアドバイザーの教員を配置し、学生との信頼性を保ちながら学生指導を行つております。服飾芸術科は裁縫学校として創立された本学の原点ともいえる「モノづくり」の精神を大切に、ファッショングを用意しており、学生が抱いている将来の目標に応じた履修モデルを選択できる仕組みにしております。

これまで求められているスキルを修得することにより、社会人として活躍できる女性の育成を最終的な目標としています。

従来の履修モデルを、今年度見直しを図り新たな就職に直結する七つの履修モデルを作成いたしましたのでご紹介いたします。

「ファッショングランディングモデル」、「ファッショングランディングモデル」、「ファッショングランディングモデル」、「ウェディングモデル」、「ブライダルモデル」、「セラピストモデル」、「ピューティモデル」の七つの履修モデルを作成いたしました。

「ファッショングランディングモデル」は、本学の建学の精神である教育方針と理念を基に作成いたしました。以上のように履修モデルは、本学の実地見学で現場を体感し、ブライダルビジネスを学びます。模擬挙式体験ではウェディングプランナーによる直接指導を通して実践スキルを修得し、ドレススタイルリストによるドレス・アクセサリー選定の実践指導を行い、第一線で活躍できるような人材を養成します。

「セラピストモデル」は、業界の企業と職種を知り、店舗リサーチを通してブランド分析力を身につけています。またグループワークを通じて店舗分析力を身につけます。またグループワークやコミュニケーションスキルを養成します。

「ピューティモデル」は、平成から令和へと新たな時代へと進みましたが、更に気持ちを引き締め服飾芸術科教員一同で、学生指導に取り組んでいく所存です。千草会の皆様には、何時までも戸板女子短期大学を見守って頂けますようお願い申し上げます。

人材を養成します。

「ライフスタイルモデル」、「ファッション業界を含めたエンタテインメントビジネスを運営・管理できるプロデュース力を身につけて、映画・舞台芸術・美術鑑賞など多彩なアートに触れ、ディレクター力を学ぶ機会を設けライフスタイルを充実させる自分を磨く力を養成します。



学長補佐・図書館長
食物栄養科・総合教養センター教授

吉川 尚志



我々が描く在学生の将来像に向けて

本年度より学長補佐を拝命いたしました吉川でございます。小林操子会長をはじめ、千草会の皆様には平素より本学の運営にご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

我々教職員は常日頃、入学した学生たちをいかにステップアップさせられるか、またどれだけ満足して社会に羽ばたいていくくれるかを模索しております。その中で、本年度、私が携わったものを二つご紹介させていただきたく存じます。



クリスマスディナーメニュー

一つ目は、総合教養科目である『戸板ゼミナール』における産学連携プレゼンテーションになります。この授業では、学生が社会に出でて様々なアイデアを生み出すだけでなく、いかに相手に自分の思いを伝えられるかというプレゼンテーション能力を養うことを目的としております。

食物栄養科の学生は今回、連携していただいた株式会社ダイヤモンドダイニング様の運営する『古城の国アリス(店名)』におけるクリスマスディナーのメニューを開発をいたしました。最初に全学生が個人でアイデアを作成し、次に

五名程度のグループにて最終的なアイデアをまとめ、それをプレゼンテーションし、企業様から選ばれた最優秀チームのメニューが実際に商品化されることとなりました。選ばれたチームの学生は試作実験の段階で店舗に赴き、プロの料理人の方に自分たちの意見をしつかり伝え、限りなく自分たちのイメージに近いものができあがりました。

また、ご覧いただいたかもしれません、最優秀チーム以外のチームもTOITA Fesやオーブンキッチンパース等で発表の機会を設け、益々プレゼンテーションに磨きがかかっています。私自身、こ

二つ目は、前年度より立ち上げたボランティア団体『TOITAアンバサダー』についての活動です。参加希望者を募ったところ、前年も本年度も約二百名もの学生が応募してくれています。ボランティア活動に関してはすでに高校時代に経験した学生も多くおり、意識の高い学生がたくさんおりま



MINATOシティハーフマラソン

ここで教鞭をとり始めてこんなにも学生の目が輝くのに初めて出会うことことができました。学生たちからはもつと同様の企画を組んで欲しいとの意見もあり、次年度より総合教養科目に『プレゼンテーション』の授業が開講されます。

イベント終了時の学生のレポートを見る限り満足度も高く、自身が社会貢献できたことの悦びを書く学生がほとんどであり、この経験が自身の向上に繋がっているものと思われます。

加、麻布十番青年会様からの麻浜FC様からの夏祭り(約三十名参加)、東京青年会議所様からのわんぱく相撲港区大会(約十名参加)がございました。これ以外にも、大学周辺の施設からのご要望にお応えして活動を実施しております。

簡単ではございますが、産学連携プレゼンテーションとTOITAアンバサダーについてご紹介をさせていただきました。在学生の将来像に向けた我々教職員が寄与できることは何かを常に考え、邁進して参ります。

最後になりましたが、『ちぐさ』をご覧の皆様におかれましてはご

変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

(5)

本学「国際コミュニケーション学科」の歴史は古く、戸板女子専門学校に被服科を一九四六年二月に設置された直後の四月から、「英文科」として設置されました。その後、戸板女子短期大学として発足した一九五〇年四月に被服科・生活科・英文科・別科として設置されました。現在の「国際コミュニケーション学科」に改称されています。グローバル社会を見据えて、いち早く改称がなされたことになります。当時は学科名が長すぎるので、「国際コミュニケーション学科」に改称されています。

短期大学には、二年間しか学びの時間がありません。そのため、卒業後の自分となるべく早い時期にイメージし明確な目標を持つことが、集中的に学ぶためのモチベーションになると考え、二〇一年就職に直結する履修モデルを考案し、二〇一二年度生からそのモデルを基に時間割作成を行いました。当初はホテル・ツーリズム・観光、エアライン・エアポート、ITビジネス、商社・金融・秘書編入学・留学の五つの履修モデルから始まりましたが、社会情勢に合わせて、現在ではエアライン、ホテル・ツーリズム、金融・広告・ICT、ビジネス・セレプション・販売、医療事務・医療秘書、編入などをとバージョンアップされております。

さて、私がこの歴史ある国際コミュニケーション学科の学科長を拝命して今年で四年目を迎える幸いなことに、ここ数年は学生募集が順調で胸をなで下ろしていますが、これは毎年カリキュラムの見直しや新しい取り組みを行ってきた成果だと自負して



国際コミュニケーション学科
学科長

佐藤 美保



グローバルな教育をめざした 国際コミュニケーション学科の歩み

かつて無駄なく努力できるよう、各履修モデルに合わせて時間割を作成し、勉学に励むことができました。この各履修モデルに呼応した学びの一つに、Business Conversation、Airline・Airport、Business Conversation、Hotel、Business Conversation: Officeなど、様々なビジネスシーンに応じた英会話科目があります。これらの科目では、専門的な用語も学び、ロールプレイなどを通して仕事を疑似体験することができます。右記の科目以外にも、「エアラインホスピタリティ」「ホテル・ツーリズムスタディ」「メディカルクラーク」「ネットコミュニケーション論」など、専門的な知識を学びながら、同時にマナーやホスピタリティを身につけることができるカリキュラム編成になつております。

ナーハー力を身につけた本学科の卒業生の就職先は多岐に渡ります。特にエアライン業界においての就職率はここ数年で格段に上がっています。ANAエアポートサービス、Air Do等々で、多くの学生がキャビンアテンダントまたはグランドスタッフとして活躍しております。その他にも、プリンスホテル、ザ・キャピトルホテル東急、パークハイアット東京、ミリアルリゾート、ANAエアポートサーキス、日本通運、IMSS板橋中央総合病院グループ、タワーレジデンス(東京タワー)、エフ・ディ・シイ・フレンズ(4°C)、高島屋等々、各業界の一流れ会社において、本学の学生が卒業後も本学での学びを深めることを忘れず、社会で飛躍してくれることを切に祈っております。

末筆になりましたが、本学の学生の今後の活躍のためには、同窓会の皆様の変わらないご指導ご鞭撻が必要不可欠です。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



短大事務局長
坂 勇次郎



栄養士の魅力

短大事務局長の坂と申します。この度は、同窓会誌『ちぐさ』執筆の機会をいただき、ありがとうございます。

今、短大では教育改革を進めております。具体的には、学生の成績を多面的に評価し、学修成果を可視化する仕組みづくりをしていきます。本学では、知識・技能を身につけることは言うまでもなく、皆で問題解決する力、人に自分の意見を伝えるプレゼンテーション力等も指導しています。がんばってきた学業の成果を就職に役立てるべく、自ら学んできたことを企業へどのように可視化するか事務局長として日々努めています。

栄養士を取得した食物栄養科卒業生の進路先に変化が出てきています。以前は就職先として最も人気が高かつたのは、保育園や病院の栄養士でした。しかし、企業の新

卒求人募集が積極的になり、給食受託会社への就職者が増えてきました。さらに本年は、「DEAN & DELUCA」等流行カフェ、行列ができるパンケーキ店「エッグスシング」や高級料亭「なだ万」等の飲食サービス、「ABCクッキングスタジオ」や「成城石井」等食関連の会社へ就職する者が増え、保育園、病院等の栄養士を目指す人は減少傾向にあります。このように栄養士資格を取得し、その技術を栄養士職ではない仕事に活かそうとする学生が増えています。

私は、栄養士の知識・技能は、栄養士職の仕事としてだけではなく、家族に対しても有益な資格であると思います。妻は、私のメタボ予防に気を配り、子供たちの栄養を管理し、立派に育ってくれました。私は妻に日々感謝をしています。（本人に面と向かっては言えませんが…）

私は、栄養士の知識・技能は、栄養士職の仕事としてだけではなく、家族に対しても有益な資格であると思います。妻は、私のメタボ予防に気を配り、子供たちの栄養を管理し、立派に育ってくれました。私は妻に日々感謝をしています。（本人に面と向かっては言えませんが…）

いただき、栄養士の魅力を皆様のお嬢様、お孫様、姉妹等に伝えていただければと思つております。皆様のご家族のため、母校戸板のためにご協力のほど、お願い申しあげます。

ところで坂家においても、長女の大学進学の際、戸板に入学し栄養士になることを勧めました。しかししながら、娘は幼稚園教諭になります。夫は他の進路を選びました。幼稚園教諭は激務であると聞いておりましたが、栄養士同様に仕事に対しても家族へも活かせる知識・技能が身につくと思い、進学を認めたこととしました。長女は今年、幼稚園教諭として就職が決まりました。父としては娘に、これから母に代わって弟の弁当を就職しています。初めから栄養士職に就く気はなかつたそうです。が、妻が作る坂家の夕食はいつも野菜料理が中心で、毎朝、長女と長男の弁当を作つてくれています。（本人に面と向かって言えませんが…）

好きなことを思いっきり楽しむ

被服科42回

多久和 優美



私は戸板女子短期大学を卒業後、ふるさと島根に帰郷し、以来ずっと地元を拠点に活動をしています。今では東京に行くことは殆どありませんが、学友と共に過ごした二年間は私にとつてキラキラ輝く青春の一ページです。

母校を卒業後、母親の経営する美容関係の会社で働き始めました。しかしその一年後、アナウンサーになりたいという長年の夢をどうしても諦めきれず、転職に向けて新たな第一歩を踏み出しました。何故か「必ず（フリー）アナウンサーとしてやつていける！」という根拠のない自信がありました（笑）。

広島のアナウンス学校で基本を学び、その後運よく地元のケーブルテレビとFMラジオ局での職に就くことができました。大好きな仕事ができる喜びはひとしおで、「やる気と情熱だけは誰にも負けない！全てが自分にとつての糧になる！」と信じて突き進みました。その甲斐あって、今では仕事の幅も広がりアナウンスやナレーション、映画の音声ガイドなど声に関わる仕事をはじめ、企画・制作など様々な仕事に携わっています。

仕事も軌道に乗り、結婚、出産を経て四十代を迎えた時、またひ

とつ人生を変える大きな転機が訪れました。社交ダンスとの出会い、いえ再会です。

私が学生時代に所属していた舞踏研究会は、慶應義塾大学のパートナー校であり、その恵まれた環境の中で競技ダンスに打ち込んでいました。この時、素晴らしい先輩や仲間と出会い、ダンスで表現することやカップルで踊ることの楽しさ、大きさを学びました。しかし、社会人になつてからは踊る機会は殆どなく仕事に邁進する日々でした。そんな私にある日突然、現役のアマチュアA級競技選手のパートナーにならなかいかといふ話が舞い込んできたのです。競

技ダンスの世界には技術のランクがありA級は一番上の階級になります。近年では、アナウンサーの仕事も今までの経験を活かし、後進の指導に携わる機会も多くなってきました。

近年では、アナウンサーの仕事も今までの経験を活かし、後進の指導に携わる機会も多くなってきました。

「好きなことを思いっきり楽しむ」これが今の私の人生に繋がっています。

競技ダンス歴も今年で七年目です。今では自分がダンスを楽しむだけでなく、指導員の資格も取得し教室や地域の学校などで子供たちにダンスを教え、その魅力を伝えています。



競技ダンス大会

食で世の中を明るくする

生活科51回

木下 瑠里



私は現在、冷凍テクノロジーでフレードロスを解決する、をミッションに掲げた「ディープレイク株式会社」に勤務しています。多数の特殊冷凍機を扱う日本で唯一の専門商社で、お客様が扱っている食材に対しても、どの機械を選定し得るか中立な立場でコンサルティングをしております。私は主に、特殊急速冷凍による食品の研究、商品開発、果物加工に携わっています。初めて特殊冷凍機に出会った時はかなりの衝撃を受けました。世の中にはこんな急速冷凍とは食材の品質を落とさず凍結できる技術です。そこで、あらゆる食材の研究をしてまいりました。

最初は解凍してどれだけ生の状態に復元するかを一番に考えていました。魚や肉などはほぼ解凍して復元できますが、生の野菜や結果物は不可能でした。ある時、凍結したフルーツをそのまま試食したときに、そもそも解凍する必要がないのではないかと、それが商品開発の始まりでした。

フルーツのフレードロスは年間〇〇万トン出ると言われています。まずは現状を知るために、全国の生産者まわりをはじめました。そこには知らない世界がありました。果樹農園では、完熟する前に早採りせざるを得ない悩みがあります。「一番美味しい状態で食べたい」と願うのは、どの生産者も同じだと思いますが、市場に出荷してからお店に並び、出荷してからお客様に届くまで数日かかるため、一番美味しい状態まで育ててもらえない。お客様に届くまで数日かかるため、採りして出荷するしかありません。

私は主に、特殊急速冷凍による食品の研究、商品開発、果物加工に携わっています。初めて特殊冷凍機に出会った時はかなりの衝撃を受けました。世の中にはこんな急速冷凍とは食材の品質を落とさず凍結できる技術です。そこで、あらゆる食材の研究をしてまいりました。

最初は解凍してどれだけ生の状態に復元するかを一番に考えていました。魚や肉などはほぼ解凍して復元できますが、生の野菜や結果物は不可能でした。ある時、凍結したフルーツをそのまま試食したときに、そもそも解凍する必要がないのではないかと、それが商品開発の始まりでした。

フルーツのフレードロスは年間〇〇万トン出ると言われています。まずは現状を知るために、全国の生産者まわりをはじめました。そこには知らない世界がありました。果樹農園では、完熟する前に早採りせざるを得ない悩みがあります。「一番美味しい状態で食べたい」と願うのは、どの生産者も同じだと思いますが、市場に出荷してからお店に並び、出荷してからお客様に届くまで数日かかるため、採りして出荷するしかありません。

フルーツは、完熟する前に早採りせざるを得ない悩みがあります。「一番美味しい状態で食べたい」と願うのは、どの生産者も同じだと思いますが、市場に出荷してからお店に並び、出荷してからお客様に届くまで数日かかるため、採りして出荷するしかありません。

最初は解凍してどれだけ生の状態に復元するかを一番に考えていました。魚や肉などはほぼ解凍して復元できますが、生の野菜や結果物は不可能でした。ある時、凍結したフルーツをそのまま試食したときに、そもそも解凍する必要がないのではないかと、それが商品開発の始まりでした。

フルーツは普通の冷凍では風味も香りも飛んでしまうのに対して、特殊急速冷凍は生のフルーツの風味がそのまままで甘味も酸味もしつかり残っています。旬の一番美味しい時にすぐに加工しているため榮養も豊富なままであります。また、結晶が小さいため冷凍なのに歯がスッと通り新食感を生み出します。もちろん冷凍のため余計な添加物を入れる必要もありません。フルーツ一〇〇%天然アイスです。フルーツは全て、サイズ規格外や無農薬栽培による見た目の悪い

られないと悩む農家さんが、非常に多いです。日本人は見た目重視になります。市場出荷の場合は市場ごとに厳しい条件が設けられます。規格によつて値段が異なるので、規格によって値段が異なります。市場からはじかれてしまうものもあります。

また、農家さんのもう一つの悩みとして人手不足があります。インターネットを活用して直売するという手法もありますが、果樹農園全体の高齢化が進んでいたり、人手不足もあってなかなかオンライン販売には手がつけられないのが現状です。愛情込めて育てているからこそ、完熟するまで育てあげたい、美味しい状態で食べてほしいと願っています。

そんな生産者の想いを消費者に届けたいと考えた商品が「HenoHeno」です。自社の冷凍ノウハウを生かしたフルーツンフルーツ事業です。「HenoHeno」とはハワイ語で「愛らしい」という意味です。傷や形状によりはじかれてしまつていたものを、愛らしさの価値のあるものに変えるという意味を込めています。

フルーツは普通の冷凍では風味も香りも飛んでしまうのに対して、特殊急速冷凍は生のフルーツの風味がそのまままで甘味も酸味もしつかり残っています。旬の一番美味しい時にすぐに加工しているため榮養も豊富なままであります。また、結晶が小さいため冷凍なのに歯がスッと通り新食感を生み出します。もちろん冷凍のため余計な添加物を入れる必要もありません。フルーツ一〇〇%天然アイスです。フルーツは全て、サイズ規格外や無農薬栽培による見た目の悪い



フルーツ100%天然アイス

小野一成先生を偲んで



一九八二年から二〇〇一年までの十九年間の勤務の中で、教授として一般教養科目の「日本生活文化史」の教鞭を執るだけでなく、一般教育科長、図書館長、学長、理事、理事長などの要職に就かれました。特に二〇〇〇年から二〇〇五年の間、学長や理事長として学校経営にご尽力くださいました。学生募集が困難で先の見えない状況の時期、長い会議が続き、ご苦労も多かつたと推察いたしておりました。現在、学生募集が安定し、学生たちの闊達な姿をご覧になられたら、きっと安堵され喜ばれたと存じます。

二〇一九年四月十二日、小野一成先生は八十八歳でご逝去なさいました。ご体調が優れないので『ちぐさ』六十三号への執筆は辞退させていただきたいたいと、お嬢様からご連絡をいただいたのは一昨年の秋のことでした。ご専門が日本文化史でしたので『ちぐさ』第五十五号から第六十二号までの八年間、随筆『三田界隈 今昔物語』を執筆していました。卒業生からは、学校周辺の歴史がわかり、なおいつそう母校が身近に感じられた、続きを読むのが読みたいなど、ご支持を得ておりましたので編集委員一同、一日も早いご回復をと願つておりました。今は、叶わぬこととなり寂しい思いであります。

○千草会会长 小林 操子

一九八二年から二〇〇一年までの十九年間の勤務の中で、教授として一般教養科目の「日本生活文化史」の教鞭を執るだけでなく、一般教育科長、図書館長、学長、理事、理事長などの要職に就かれました。特に二〇〇〇年から二〇〇五年の間、学長や理事長として

○元図書館司書 佐藤 良子

小野先生の訃報が届いたのは、平成最後の桜が散った頃の四月十二日のことでした。先生は本がとてもお好きで、本学に勤務された当初から図書館を頻繁に訪れ、書架を散策されておられました。そんなご縁もあって担当科目の中で京都や日本橋、銀座などの史跡見学を計画され、希望する学生はもちろん、教職員にも参加を許してくださいました。歴史が好きな私は、新橋や銀座の中で明治の痕跡を探して、先生の率のものと学生達に紛れて楽しく歩いたことが思い出されます。自分で足を運び、自分の目で確かめる大きさをご教授いただいた思い

どでご活躍していらっしゃいました。特にNHKの大河ドラマ『翔ぶが如く』では風俗考証を、朝の連続テレビ小説『春よ、来い』や『あぐり』などでは時代考証をなさり、私たちを大いに楽しませてくださいました。

先生とはお立場や部署が違つたこともあり、お話しする機会は多くありませんでしたが、「ちぐさ」を通して身近に感じておりました。卒業生を代表して、ご貢献いたいたことに感謝と御礼を申し上げます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

小野先生は図書館に来た学生の小さなからアドバイスをされておりました。好奇心旺盛なあるグループは、卒業してユニークな疑問にも、丁寧にあらゆる方向毎日のように来館し先生とのコミュニケーションを楽しんでおりました。このグループは、卒業して二十数年経つた今でも交流は続いていると聞いております。

また、先生は本学の校歌に注釈をつけられたことがあります。その理由は、本学の校歌は大正十一年に作られたもので、歌詞の意味が、今の学生にとつてわかりにくいうといふ声を耳にされたからです。歌詞の中に『処女（乙女）のことが、昭和六十二年から平成六年まで、一般教育科長（後に総合教養科長）と兼務で図書館長を務められました。

先生は学生に、図書館を単にレポートや課題等の参考資料を利用するだけの場所ではなく、自分自身の豊かな教養ある人間性を培う場所にして欲しいと、強く願っています。

今でも書架の散策途中、その場で立つたまま時間を忘れて、本を読んでおられたお姿が目に浮かびます。

小野先生のご冥福を心よりお祈り申しあげます。



バラを育てて十年

被服科十五回

川添 敬子

ベランダで鉢のバラを育てて約十年になります。

きっかけは、私の家から福岡市植物園がすぐ近くにあり、四季折々の花などを見に行っていました。約十年前、二階のホールでバラ展をやつていましたので、何気なく覗いたところ、ホール一杯に会員の方々が育てたバラが展示されていました。その豪華な美しさに圧倒され、その場で主催している福岡バラ会に入会しました。

毎月一回土曜日、二時間の勉強会があります。そこで、親切にイラストあるいは写真入りの資料が配布され、バラ歴三十年以上の大ベテランの会員の方々が講義されます。

最初の一年間は、内容が難しくアツという間に過ぎてしまいました。自分自身でも、日本園芸協会バラコースの通信教育で、六か月間並行して勉強しました。剪定、水やり、肥料、消毒、土替えなど、季節ごと、天候などにより変わり、やればやる程奥が深くなることがわかりました。今は一応自分なりの一年間スケジュールを立ててやっています。元気な頃は、五十鉢程育てていましたが、現在は、体力を考えながら二十鉢あまりを育てています。



バラは、色んな種類の美しい花と同時に、香りも人気があります。また、花びらをジャムにして食べることができ、バラ酒は各国で作られています。

バラの歴史は古く、野生のバラは三千万年も前に、北半球の各地に分布していたそうです。園芸バラは、紀元前に既に始まっています。あのクレオパトラは、大のバラファンで、ローマからシーザーやアントニウスを迎える時、宮殿全体をバラで飾り、廊下にはバラの花びらを厚く敷き詰めて歓迎しました。

また、バラの花びらを浮かべたお風呂を楽しみ、とても高価だったバラの香水も、ふんだんに愛用したと伝えられています。

春に、秋に、それぞれ美しいバラが咲いてくれると、日頃の努力が報われ感動します。これからも体力と相談しながら、また楽しみながら、鉢バラを育てていこうと思っています。

私の目標

被服科四十四回

田畠 順子

二十数年前、都会の真ん中に佇む伝統ある学び舎に憧れて、その門戸を叩いたのが戸板女子短期大学との出会いでした。当時の記念校舎は重厚感があり、まるで“はいからさん”が階段を駆け下りてくるようなイメージでした。

卒業後、就職したかと思えば海外に飛び出したり、自由奔放に生きてきましたが、その後二人の子どもにも恵まれ、自宅で近所の子供たちを集めて英語を教えたりして、忙しく過ごしてきました。

四十歳を目前に資格を取つて働きたいと思う



旧記念校舎正面玄関

い、一念発起し二年間の看護学校に通い、准看護師になりました。今は病院に勤務しています。

私の働く病棟は、終末期の患者さんがほとんどです。話すこともできず、口から食べる事もできなくなってしまった患者さんが、どのような人生を送ってきたのか想像しながら、温かな空気に包まれて最期を迎えるように看護に努めています。

私の看護観はまだまだ確立されたものではありませんが、上司である看護師長の患者さんに対する誠意ある接し方や豊かな人間性を見習い、日々精進しています。

そして、新たな目標として正看護師になるための学校へ通い、学びを深めていきたいと思っています。この年齢になつて、ようやく校訓「知好樂」の意味が少しづつではあります、わかつてきたように思います。年齢を言い訳にせず、まだまだこれから的人生を拓いていきたいと思います。

卒業してからはや二十数年が過ぎました。

私は小さい頃から食べることが大好きで、「将来は食に関わる仕事を」という思いで栄養士の道へ進みました。戸板では栄養士の勉強をはじめ、様々なことを学び、とても充実した短大生活を送ることができました。

ある授業でのことでした。終わりのチャイムが鳴った時に先生が何気なく話されたことが、今でも強く印象に残っています。その年には子供の凶悪犯罪がありました。そこで先生は、少年院に入所している子供達の入所前の食生活調査について話されました。「食べる環境・食べ物など食生活が心身共に影響を

自然豊かな地に建つピンク色の校舎を懐かしく思い出します。進学させてくれた両親に感謝してからはや四十年となり、八王子の大丈夫

生活科三十四回

金子 智代美

感謝

謝しながらも、戸板で学ぶ目標が見出せなかつた入学直前、模索する中で出会つた有吉佐和子の『複合汚染』という本に衝撃を受け、更にレイチエルカーソンの『沈黙の春』の存在を知り、自分も「食」の守り手になろうと心に決めました。

入学してから、生意氣にも活気に満ちた学内にしたいと学生会の会長をさせていただきました。多くのよき友に出会い、助けていただいて役割を終えました。

就職活動は困難を極めましたが、戸板の大先輩である故杉橋啓子先生から鈴木靜子先生に、老人ホームで栄養士を募集しているとお話をあり推薦していただき、就職することができました。両親の影響もあり、社会福祉に貢献できることにやりがいを感じました。

当時の社会はまだ女性が働き続ける環境が整つていませんでしたが、就職した社会福祉法人は制度が整つており、上司にも恵まれ、結婚や二度の産休育休を経て、現在まで続けることができました。

生活科四十五回

齋藤 知実

千草会に寄せて

栄養士として従事した後、課長、部長等と職務も変わり、その間管理栄養士・社会福祉主事・介護支援専門員・社会福祉士の資格を取得しました。現在は職員をはじめ多くの方々に支えられ、特別養護老人ホームの施設長と法人の常務理事として勤務しております。

戸板で学び、また鈴木先生が「あなたなら大丈夫」と背中を押してくださつたおかげで

今があります。立場は変わりましたが、「食の守り手」である栄養士として従事したことは、今も大切にしています。

今年はご縁があつて『日本医療企画』誌の施設運営の中の食についての部分を執筆する機会に恵まれ、栄養士時代に培つた経験に頼らぬケア、食文化の大切さについて書かせていただきました。これからは、次の世代にいいバトンタッチができるよう努力していくたいと思っています。

及ぼし、時には人生がそれにより左右される」というお話をしました。私はこの話を聞き、大変影響を受けました。そして同時に栄養士とは、こんなにも重要な役割を担っている職業なのだと誇りに思いました。

卒業後、五年間保育園で勤務し、今では良く耳にする有機食材、無添加食材など自然食について多くを学びました。

その後、飲食業を営む主人の家へ嫁ぎ、今は十八歳を筆頭に三人の子育てに奮闘中です。子供達はおかげ様で虫歯なし、アレルギーなしで健康に育っています。改めて食生活の大切さを実感しているところです。

これからは今までの経験で培った知識と健康に対するこの想いを、お店で多くの方々に様々な形で伝えていきたいと思っています。

結びに、在学中また栄養士会の行事でお世



話になりました諸先生方、関係者の皆様にこの場をお借りして御礼申しあげます。そして、今回このような機会をいただきありがとうございました。「今年も家族皆で歩けたね」と

話になりました諸先生方、関係者の皆様にこの場をお借りして御礼申しあげます。そして、今回このような機会をいただきありがとうございました。「今年も家族皆で歩けたね」と

急に寒くなつた日の夜、バイト帰りの娘が荷物を持ってくれたり、電車で席を取つてくれたりと、かつて私が母にしてあげたことを思い出し、年を取つたな…と感じます。

マイブーム

英文科三十一回

三石 晴美

短大を卒業して、早いもので四十年が過ぎようとしています。三田界隈もすてきな街にかわっているので、還暦です…。学生の頃は六十歳イコール「おばあちゃん」というイメージでしたが、自分がその年齢になつてみると元気なのです。

最近の健康志向の一つがマラソン、私もそのマラソンブームにのり、十年前から走るようになりました。年に二回、体に負担のこない程度の三キロ、五キロのレースに、制限時間内の完走を目指してエントリーをしています。完走した後の達成感はたまりません。ただインターネットでのエントリーには毎年苦戦しています。

もう一つ続けていることがあります。伊勢原にある大山の初詣です。子供達の小さい頃から二十数回になると思います。下社から上社までの往復、急階段が果てしなく続く男坂、ゆつたりとした坂道や階段の女坂、その時の

様子で決めますが二時間少々かけて歩いていきます。頂上の阿夫利神社でお参りして下山します。「今年も家族皆で歩けたね」と



これからも食生活、適度な運動で健康に気をつけていこうと思ひます。

交流会報告

北部九州支部

生活科十四回 大塙 和子



六月二日(日)に第二十二回北部九州支部会を福岡ガーデンパレスにて開催いたしました。母校より千草会科長の小林操子先生、服飾芸術科学会長の小泉きよみ先生においでいただき、会員は長崎一名、佐賀一名、山口一名、福岡五名と遠方からもご出席くださいり、有難い思いでお迎えさせていただきました。

総勢十名のささやかな会でしたが、昼食をいただきながら、時が学生時代にもどったように、なごやかに趣味や近況などをお話をされ、楽しい会となりました。

また小泉先生より、現在の戸板女子短期大学のお話を聞いていただきました。すばらしい大学になり、同窓生としてとてもうれしく思い、先生方のご尽力に感謝、感謝です。

その後、理事の川添さんのご主人様のご協力で、先生方と令和ゆかりの太宰府と坂本神社に参拝し、大変喜んでいただきました。

今回の支部会では、初めて参加された方三名、その中で英文科三十三回生の若い方もおり、今私は、若い方のご出席に力を入れておりますので、有難い思いでした。

参加者が少なくとも支部会がなくならないように私共も同じでございます。次回は長崎の予定となつておりますが、その折にお手伝いができました

ら元気でいることにも繋がり、幸せを感じております。

同窓会千草会の今後になりますが発展と、また鈴木靜子先生はじめ諸先生方のご健康と母校のご発展をお祈りいたします。

福島県支部

生活科二十七回 加藤 啓子

六月二日(水)千草会会長小林操子先生、副会長山口順子先生をお迎えし、三十二名のご出席をいただき、北海道庁を目の前に大通公園を見渡せる中心街にあります札幌グランドホテル十七階「白雲の間」で開催をいたしました。

受付では、久しぶりの再会を喜び合う姿が見られ、楽しげに賑わいました。会の進行は、亡くなられた方への黙祷、支部長挨拶に続き、会長小林先生より短大、千草会の近況のお話をされました。短大は時代に合った方向にあり順調であるとのお話に、皆様安堵されていた様子でした。

次いで釧路地区、札幌地区の活動報告がされた後、これから活動方針の話をされていました。北海道は道内全体の範囲が広く、札幌を中心として遠方からだと五、六時間はかかるなど五

る程の距離があります。それに会員及び役員の高齢化が進み、全道規模の支部会開催が困難になつてきました。この様な状況にあることから、今後は簡素化をする方向で、今回の案内のハガキに次回からの支部会案内をいただき、長い間ご苦労様でしたと、労いの言葉が書き添えられていました。そして、支部会でもございました。そこで、支部会でもございました。

出席の皆様の了承をいただきました。支部会終了後は懇親会となり、副会長山口先生のご発声で乾杯、会食となりました。会場での席は皆様のお顔がお互いに見えるよう、大テーブルを囲む形にしましたので、全員による近況報告ではお話をされる方のお顔が見え、より親近感を感じました。

出席者は、二十一回生以前の方ばかりでしたが、趣味、お仕事など、多方面で自分の世界をお持ちでおしゃれです。戸板の卒業生は素敵です。東京から生活科十四回、奥山和子様、横浜より中澤聰子様、埼玉より森澄子様のご出席もいたしました。最後の輪が広がった様に思いました。後に校歌斎唱、締めの乾杯で閉会となり、再会を約束して散会となりました。

北海道支部会で出会い、長きに亘り交流を重ねてきた方々とは、今後もできる限りの交流を続けていきたいと思つております。次回からの毎年行われる交流親睦会を楽しみにしております。

会長小林操子先生、副会長の山口順子先生、前会長の鈴木靜子先生、常任幹事永山クニ子様にもご出席していただき、美味しい食事をしながら懇談しました。寮の厳しかった生活に話が盛りあが



り、洗濯板での洗濯の仕方、アイロンのかけ方、生け花などどれも今の私の基礎になつているのは確かです。とても楽しい時間を過ごし、引き継ぎの資料などを持ち帰つてきました。次回は浜通り、いわき市で開催できたらと思つていて矢先、十月に台風十九号で大変悲惨な被害を受けてしまいました。温暖化のせいなのでしょうか。誰もが常日頃の天候には気をつけなければなりませんね。次回には多数のご参加をお願い申しあげます。

宮崎県支部

生活科十八回 江藤 博子

十月二十日(日)宮崎県文部会を三年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

古希の同窓会

生活科二十回 押切 京子

梅雨の合間、令和元年七月六日(土)「プラッスリー・ボーレルボギューズ銀座」で八王子校舎生活科二

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。

年ぶりに開催することができました。宮崎観光ホテル「料亭山吹」にて十名の会員と本部から小林操子会長、本田好子副会長のご参加をいただき、しつとりとした雰囲気の中にも楽しめたことは、大変ありがとうございます。平成二十九年六月「日比谷松本楼」で開催された第三十四回総会に、宮崎県支部から五名の参加をさせていただきました。



とても楽しかった一泊二日の思い出を話して一言ずつ感想を述べていきました。

恒例のくじ引きも当たつてうれしい、はすれて残念な顔などで打ち解けあい、お喋りも大いに盛りあがりました。先生方のお見送りの時間が近づきましたので、次の再会を誓いながら閉会となりました。

また、この度の支部会開催にあたりうれしいことがありました。大先生

輩で九十二歳になられた高等師範科三十回卒の野口洋子様から幾度もの連絡、さらに前日には励ましのありがとうございました。神話のふるさと「高千穂」にお住まいですので、直接お伺いしご報告させていただこうと考えております。

これも千草会のうれしい絆と考えます。

美味しいお料理と八王子校舎での学生生活や寮生活のエピソードなどでは話が盛りあがり、あつという間に



千草会 支部紹介

支部名	支部長	卒業回数	支部総会
群馬県支部 (連絡先)事務局	北爪 隆江(原田)	生活科 15回	毎年開催
	近藤二三枝(武)	生活科 19回	
栃木県支部	直井 和子(関根)	生活科 18回	2年毎開催
	飯島八壽子(成田)	英文科 22回	
静岡県支部			
宮崎県支部	江藤 博子(佐藤)	生活科 18回	3年毎開催
福島県支部	加藤 啓子(大和田)	生活科 27回	
北海道支部	大平 清美(山下)	生活科 16回	3年毎開催
北部九州支部	宮原トシ子(鹿又)	生活科 3回	2年毎開催
	本田 悅子(草野)	生活科 12回	

連絡をお取りになりたい方は、同窓会事務室までご一報ください。

十回生の同窓会を行いました。総勢

三十一名が遠くは福岡・会津・長野・静岡・関東六県から集まりました。

前回は還暦の翌年に企画しましたが、東日本大震災のため中止になりました。今回も、古希を迎えたままでした。今回は、古希を迎えるので同窓会をして欲しいという声があり、実に十七年ぶりの開催となりました。

皆さんのがどのように変わっているのか楽しみにしておりましたが、古希というのに皆、若々しく輝いていました。お会いするとすぐに学生時代の気持ちに戻ってしまいます。中には半世紀ぶりにお会いする方もいて、皆さん嬉しそうに和氣あいあいと旧交を温めました。

戸板で学んだ栄養士の資格を活かし、未だに仕事を続いている方もいました。また、栄養士として働かなくとも家族や自分の健康管理に役立つて、女性が就職する時、資格を持つていることが力になつたと言つていました。また、栄養士として働かつたことです。

便りまでいただき、いたく感激いたしました。神話のふるさと「高千穂」にお住まいですので、直接お伺いしご報告させていただこうと考えております。

これも千草会のうれしい絆と考えます。

三時間が過ぎてしましました。

今回、多数の皆様にご参加いたただき、楽しい時を過ごすことができましたので、二、三年後にまた開催しようということになりました。

元気で再会できることを約束して名残惜しく会を終えました。

戸板栄養士会だより

会員の皆様、お元気でご活躍のことと拝察申しあげます。日頃よりご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和元年度の主な活動をご報告いたします。

【総会・セミナー】

平成三十一年三月二十四日(日)

平成三十一年度戸板栄養士会総会とセミナーを開催しました。セミナーは、食物栄養科五回能登ひとみ様にご指導いただき、かわいいクッキー講座を行いました。参加者は二十七名でした。

令和二年三月十二日(日)

総会と食物アレルギーをテーマにしたシンポジウムを開催する予定です。

【懇親会】

令和元年十月二十七日(日)

前回の懇親会で好評だった新橋第一ホテル東京「エトワール」にて、今年度も懇親会を開催しました。世界の料理バイキングを堪能しました。当日は、久しぶりに参加された方なども含め十七名の参加者があり、楽しいひとときを過ごしました。

【TOITA Fesへの参加】

令和元年十一月十六日(土)・十七日(日)

戸板父母の会、戸板女子短期大学同窓会千草会とご一緒に、八〇二教室での参加となりました。昨年の一階会場よりも多くの方においでいただきました。本会では、毎年大好評の健康茶(二種類)を提供し、またアルコールパッヂテスト、体組成測定などを実施し、来場者への健康意識の向上に繋げました。

【幹事会】

偶数月の第一月曜日を定例会議とし、幹事二十二名で運営しております。

第一回 令和元年六月三日(月)令和元年度年間行事計画、維持費について

第二回 八月五日(月)年間行事の詳細について
第三回 十月二十七日(日)TOITA Fes役割割分担、広

報誌の記事、担当について

第四回 十二月一日(月)総会・講演会について、広報誌の記事内容について

第五回 令和二年二月六日(木)総会・講演会の詳細、役割分担、次年度年間行事計画

第六回 三月二十二日(日)総会・講演会打ち合わせ

第三回

三月二十二日(日)総会・講演会打ち合わせ

【管理栄養士国家試験対策講座】

第二十二回管理栄養士国家試験対策講座は、七月から十二月の土・日に二科目ずつ四回シリーズで計八科目開講しました。講師には、本学に縁の深い先生方と現食物栄養科教員にご担当いただきました。

第三十三回管理栄養士国家試験合格者は五名でした。

合格された皆様には、心よりお祝い申し上げます。個人情報保護法により合格者の個人名は発表されていないため、合格された方はぜひ戸板栄養士会までご一報ください。また、今後受験を予定されている方は、母校での「管理栄養士国家試験対策講座」にぜひともご参加ください。どうぞよろしくお願ひいたします。

生活科(12回)・同期会

日 時	会 場	出席者	幹 事
7月6日(土) 9月13日(金)	プラッスリー・ホール 南国酒家原宿店	31名 押切京子	ボギューズ 銀座

クラス会だより

平成31年度に開催が報告されたクラス会を紹介いたします。



生 活 科	(9回)	・たなばた会
日 時	11月15日(金)	
会 場	日比谷松本樓	
出 席 者	9名	
幹 事	戸塚好子・多田陽子	
幹 事	大峰英子・山口不些子	



ひとり分の楽々ごはん



管理栄養士
食物栄養科 5回

井上 慶子

材 料

・発芽玄米ご飯	軽め茶碗 1杯 (140g)
・牛ひき肉	40g
・にんにく	1/2かけ
・切干大根 (乾燥)	ひとつかみ (7g)
・油	小さじ 1/2
A カレー粉	小さじ 1/2
顆粒コンソメ	小さじ 1/2
しょうゆ	小さじ 1/2
・刻みパセリ	小さじ 1

作り方

- ① 切干大根は水で戻し水気を切り細かく刻む。
- ② 油を熱したフライパンににんにく、牛ひき肉を入れ中火にかけ肉の色が半分変わったら①を加え炒め、水小さじ 1 (分量外) を回しかけ蓋をして 1 分ほど蒸焼きにする。
- ③ ご飯と調味料 A を加えしっかり炒め混ぜる。
- ④ 皿に盛り刻みパセリをちらす。

主食&主菜 発芽玄米ご飯のカレーピラフ風

～シャキシャキ食感が楽しい切干大根を洋風アレンジ！～



【栄養成分】エネルギー 391kcal、たんぱく質 12.2 g
脂質 12.6 g、炭水化物 56 g
食物繊維総量 4.5 g、食塩相当量 1.0 g

副菜 野菜とひよこ豆の煮込み

～味付けは塩こしょうのみ！焼き目は最高の調味料♪～



【栄養成分】エネルギー 152kcal、たんぱく質 6.4 g
脂質 5.4 g、炭水化物 21.7 g
食物繊維総量 8.4 g、食塩相当量 1.0 g

材 料

・キャベツ	1/10 個
・茹でひよこ豆	大さじ 3
・玉葱、人参	1/8 個、1/10 本
・エリンギ	1/2 本
・にんにく	1/2 かけ
・油	小さじ 1
・塩、黒こしょう	小さじ 1/6、少々
・水	1 カップ

作り方

- ① 油を熱した鍋に、潰したにんにくを入れ香りがでたら具材を並べ、蓋をして弱めの中火で 5 分ほど焼き片面に焼き色をつける。
- ② 裏表を返し、塩こしょうと水を加え煮汁が沸騰したら蓋をして中火で 5 分ほど煮る。蓋を取り煮汁が大きさ位になるまで煮詰め、器に盛る。

ポイント!

不足しがちな食物繊維を効率よく補うためには【主食】と【加熱】がポイント！発芽玄米は玄米より柔らかいため食べやすく、白米の約 6 倍も食物繊維を含むため摂取量の多い主食に取り入れると良いでしょう。副菜には旬の野菜やきのこ、手軽な茹で豆など数種類の具材を煮込むことで旨味がアップ、減塩にもつながりたっぷりの野菜も無理なく美味しく食べることができます。

TOITA Fes 2019を終えて

実行委員長 梅野 亜美
食物栄養科2年



私がTOITA Fes 2019実行委員長に決まったのは、一昨年の十一月、開催まで実行委員八十名と教職員の皆様と共に学園祭を作りあげてきました。この一年間、沢山の人と関わり、沢山のことを学び、「短大史上最大級の学園祭」を作りあげるため日々努力をしてきました。学園祭全体の企画・運営に携わり、自分自身が日々成長し、視野が広がり、今後経験することのできないほどの貴重な活動ができました。

一昨年のTOITA Fes 2018を終え、次年度の役職発表の日、実行委員長から次期実行委員長に推薦されました。「私が実行委員長で良いのだろうか」「成功させることができるだろうか」と不安でいっぱいでしたが、挑戦したい思いが強く、その場で引き受けさせていただきました。そして、今まで以上の学園祭を作りあげようと目標を掲げ、早々に活動を開始しました。

例年は金・土曜日開催でしたが、今年度は土・日曜日に変え開催しました。更に開催日が例年より一ヶ月遅い十一月ということで準備期間も十分、一年間かけてTOITA Fes 2019を作りました。

今回は映画『ハイスクール・ミュージカル』のような明るく楽しい雰囲気をイメージし、エントランスのアーチやフロア装飾、パンフレット

デザインで表現しました。今年度のパンフレット、皆さんご覧いただけましたでしょうか。部同好会で活躍している戸板の学生をメインに表



フラワーアレンジメント体験風景



パンフレット

紙デザインを制作し、各クラス・ゼミで出店した模擬店、パフォーマンス、プレゼンテーションなどコンテストは七十以上と盛りだくさんです。多くの学生が地域・近隣の施設にボスター掲示のご協力をいただきために走り回りました。戸板周辺のタピオカ店や最寄り駅にボスターが掲示されているのをご覧になつた方



多くの場面もありました。
前回同様、戸板ホールにはランウェイとプロによる照明を設置し、本格的なFesを目指し準備をしました。

照明、音響、スポットライト、裏方など全て学生が行うため、何度もパフォーマンス団体とのリハーサルを重ねて、本番に挑みました。裏では照明の指示書を見ながら、本番ギリギリまで復習をしている一年生がい

も多いのではないかでしょうか。その成果もあり、戸板の学生や保護者の方だけでなく、友達や地域の方にお越しいただき、来場者数は二日間でなんと三千人を超えた。目標を上回る来場者でホールがいっぱいになりました。

今回の実行委員は八十名と、前回の二倍。人手が多い分、クイズラリーナどの新たな企画に挑戦し、学生の力を最大限に發揮することができました。

私は一年間「短大史上最大級の学園祭」を目指し戸板の学生全員が参加できる、楽しめる学園祭作りに努めてまいりました。次年度以降も更

たり、緊急事態で走り回る実行委員がいたりと、様々なトラブルもありましたが、臨機応変に対応し解決する姿を見て、二日間で実行委員の対応力や行動力がスキルアップしたと感じました。

今後とも戸板の学生一人ひとりが輝ける場、活躍できる場として、学内最大のイベント「TOITA Fes」にご協力いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、今年度も同窓会千草会、戸板父母の会から多大なご支援及びご援助を賜りましたこと、厚く御礼申しあげます。

TOITA Fesに参加して

卒業生や在学生はじめ多くの方々に来室していただき、盛況な二日間となりました。

(ちぐさ編集委員)



今年度も千草会は、TOITA Fesに参加しました。会場が八階の教室に戻り、栄養士会・父母の会と一緒にお客様をお迎えしました。

栄養士会は、恒例の体組成測定やアルコールパッチテストを行い、健康茶もお出ししていました。父母の会では、二日目にプリザードフラワー作りが行われていました。

千草会は、初日に木下由利子様（生活科十九回）のご指導によるフラワーアレンジメントを行い、季節のお花をアレンジして卓上花を作つていただきました。

二日目には、お抹茶とお菓子でおもてなしをしました。

両日とも晴天にめぐまれ、卒業生や在学生はじめ多くの方々に来室していただき、盛況な二日間となりました。

インターンシップ

— インターンシップで学んだこと —

服飾芸術科一年 河野邊彩花

私は夏休みに「八芳園」のインターンシップに参加しました。このインターンシップを通して多くのことを学びました。その中でも一番心に残っていることは「人の心情を読み取り、行動に移す」ということでした。

グループワークを行った際に、自分の考えていたことと違う意見を聞くことで、色々な考え方や感じ方もあるという気に気づくことができたことは、今後の就職活動をする上でとても良い体験となりました。

また一番心に響いた出来事は、八芳園で行われる予定であった結婚式に、お父様の体調が悪く出席が危ぶまれた時、プランナーが家族でお祝いをすることを提案し、ご実家の院で十日間の実習をさせていただきました。将来的に勤務したいと思っており、学生の間に現場のことを少しでも知りたいという思いから実習先として病院を選択しました。

接客を学ぶ

私は約一ヶ月間、羽田空港のラウ

ンジでインターンシップをさせていただきました。仕事内容は、飲み物、グラスの補充などの備品の管理やテーブルの整備、接客などでした。歩先を読んで行動するということです。ある日、ご年配の方々がいらっしゃる席に、使用済みのグラスがテーブル一面に並んでいました。「グラスを下げてもよろしいですか」とお声掛けしたところ、「ちょうど片づけようと思つてたの。ありがとう」というお言葉をいただきました。



給食管理実習(学外)を終えて

食物栄養科二年 田中麻由佳

私は「東京慈恵会医科大学附属病院」で十日間の実習をさせていただきました。病院は、乳児から年配の方まで幅広い年代の患者様が入院されており、疾病やアレルギーなどとの関係から食事数は毎回異なります。食事内容を少しでも間違えると患者様の身体に影響を及ぼしてしまうため、常に情報共有をされています。二つの管理形態から患者様のことを一番に考えて行動されていると感じました。当たり前のことかも知れませんが、多くの患者様がいる中で、一人ひとりに寄り添つた対応を常に実践するのは難しいことだと実感しました。

私は、十日間の実習を通して、病院栄養士の大変さを感じたと同時に、やりがいを感じることもできました。現場で得た知識を踏まえ、今後も勉強を重ねていき、患者様に寄り添うことです。実習では、臨床栄養管理と給食管理の二つの管理形態について学びました。臨床栄養管理ではNST(栄養サポートチーム)回診をはじめとした種々の回診や栄養指導に同行させていただきました。中でも印象に残っているのは、NST回診です。

対応は、対応を頭で考え、お客様にとってプラスになるような対応をすることは想像以上に難しいですが、一步先の行動を意識したことで、より良いコミュニケーションをとることにも繋がり、大変さの中にもやりがいのある仕事だと思いました。この経験を常に意識し、将来このような仕事に就いた時は、質の高いサービスが提供できるようになりたいで

実習

誰もが幸せになれ結婚式を作りあげるために、相手のことを考えられたことに感動をしました。

回診は、栄養士だけでなく他の職種の方も集まり患者様に最良の治療選択を

択を行うため、病名や食事形態、栄養剤など職種に関わらず全員が把握しているこ

とが必要不可欠だと教えていただき、チ

ーム医療の必

要性を改めて認識しました。

給食管理では、実際に調理業務を行いました。病院は、乳児から年配の方まで幅広い年代の患者様が入院されており、疾病やアレルギーなど

の関係から食事数は毎回異なります。食事内容を少しでも間違えると患者様の身体に影響を及ぼしてしまうため、常に情報共有をされています。

二つの管理形態から患者様のことを一番に考えて行動されていると感じました。当たり前のことかも知れませんが、多くの患者様がいる中で、一人ひとりに寄り添つた対応を常に実践するのは難しいことだと実感しました。

(20)

会務報告

1 行事報告

二〇一九年（平成三十一年）四月一日	「ちぐさ」第六十三号一・二年生に配布	（令和元年）五月十五日	奨学生志願者面接	七月二十七日	奨学金（奖学金）に振込
四月十一日	企画会議 幹事会準備について ちぐさ編集委員会	五月二十六日	第一回常任幹事会 二〇一九年度奨学金選考委員会	七月五日	庶務会議 雇用規定について 支部助成金を送金
五月二十六日	二〇一九年度決算報告、二〇一九年度行事計画案、予算案、幹事会開催について、その他 庶務会議 履用規定について 北部九州支部会開催	六月五日	二〇一九年度奨学金入金 奨学金委員会	七月十七日	会計監査報告、二〇一九年度決算報告、二〇一九年度行事計画案、予算案、幹事会開催について、その他 庶務会議 履用規定について 福岡ガーデンパレス
六月十二日	二〇一九年度奨学金授与式	六月十五日	会計監査	八月十九日	第二回常任幹事会 TOITA Fees 2019参加 「ちぐさ」編集会議 執筆依頼・発送
六月二十日	「ちぐさ」第六十四号編集会議 内容検討	六月二十一日	二〇一九年度入学生の会費入金 奨学金制度の見直しについて	十月四日	福島県支部会開催 「ちぐさ」編集会議 執筆依頼・発送
六月二十二日	二〇一九年度奨学金授与式	十一月三日	TOITA Fees 2019準備等の打ち合わせ	十月二十日	宮崎県支部会開催 於 宮崎観光ホテル
六月二十一日	「ちぐさ」第六十四号編集会議 内容検討	十一月十日	TOITA Fees 支援金を学生会宛に振込	十一月七日	会計会議 TOITA Fees 2019準備等の打ち合わせ
六月二十一日	出席者四十五名	十一月十九日	TOITA Fees 2019参加	十一月十六日	「ちぐさ」編集会議 執筆依頼・発送
六月二十一日	出席者四十五名	十一月二十九日	活動紹介パンフレット配布	十一月二十七日	「ちぐさ」編集会議 執筆依頼・発送
六月二十一日	出席者四十五名	十二月六・十三日	「ちぐさ」原稿締切	十二月二十四日	「ちぐさ」原稿を入稿
六月二十一日	出席者四十五名	十二月二十一日	「ちぐさ」編集会議 校正	二〇二〇年（令和二年）一月中旬	「ちぐさ」編集会議 校正
六月二十六日	出席者四十五名	十二月二十一日	「ちぐさ」編集会議 校正	二〇二〇年（令和二年）一月下旬	「ちぐさ」編集会議 校正
七月四日	於 札幌グランドホテル	三月六日	卒業認定発表日に新卒会員名簿の住所確認・新卒幹事選出	三月十日	「ちぐさ」編集会議 稿料、謝礼の整理と発送
七月四日	二〇一九年度四名（食・国）の奨学生へ奨学金の振込手続き	三月十四日	「ちぐさ」第六十四号発行確認・新卒幹事選出	三月十八日	「ちぐさ」第六十四号配布
三月下旬	経常費の予算額を三係（企画・庶務・会計、三委員会（ちぐさ編集・支部・各係・各委員会会議	三月下旬	第三回常任幹事会 二〇一九年度経過報告、二〇一〇年度行事計画（案）について	三月下旬	二〇一九年度決算、二〇一〇年度行事会計案（企画係）、予算案作成会計会議 二〇一九年度納入会費および寄付金の整理

2 二〇一九年・二〇一〇年度の役員紹介

被服科	田村 篤子	（15回）	田丸 育代	（23回）
生活科	* 小泉きよみ	（27回）	* 楠 香代子	（29回）
服飾芸術科	有川美代子	（42回）		
◎顧問	永山クニ子	（18回）	佐藤 良子	（19回）
◎会計監査	* 西山 良子	（36回）	佐々森典恵	（45回）
新幹事紹介	井部奈生子	（46回）		
新幹事紹介	鈴木 静子	（12回）		
新幹事紹介	長澤 弘子	（生16回）	* 堀口 茂子	（生27回）
新幹事紹介	荒川 里香	（37回）		
新幹事紹介	酒井 依子	（44回）		
新幹事紹介	安倍加奈子	（13回）		

二〇一九年四月より新幹事になられた方を紹介いたします。任期は二年です。（*印は学内幹事）

食物栄養科

*佐藤 耀子(11回)

国際コミュニケーション学科

二〇一九年三月卒業の新幹事
服飾芸術科

*館野 唯(15回)

*天野 夏海

大河内 かおり

食物栄養科

荒川 祥乃

国際コミュニケーション学科

*青野 遥

坂口 真優

高尾 千里

星野恵利佳

菅野 葵

島根典緒衣

牛島 菲子

16回

松本はるか(15回)

星野恵利佳

菅野 葵

島根典緒衣

牛島 菲子

星野恵利佳

菅野 葵

島根典緒衣

牛島 菲子

星野恵利佳

菅野 葵

島根典緒衣

牛島 菲子

星野恵利佳

菅野 葵

島根典緒衣

3 会計報告

二〇一九年(令和元年)六月二十二日(土)の幹事会において、二〇一八年度決算、二〇一九年度予算案が承認されましたので、ご報告いたします。

■奨学生について
二〇一八年度の奨学生は、三科六名でした。

各三十万円を六名に、合計百八十万円を支出いたしました。

■会員会費について

二〇一八年度の会費納入者は、学生会費四百八十七名・年会費七名・終身会費二名でした。

■雑収入について

二〇一八年度ご寄付を頂戴いたしました。

小林 千春学長

樋口多賀子様(英文科23回)

学生費について

学生費は、卒業生への記念品(学位記ホルダー)代として支出いたしました。

■臨時費について

臨時費は、二〇一八年度よりリニューアルされた[TOITA Fes]の支援金として、寄付いたしました。

■会費納入について

会費納入方法が昭和五十三年三月に切り替わっています。昭和五十二年三月以前に卒業された方は、年会費(千

円)あるいは終身会費(二万円)のいずれかの納入方法を選択することができます。この納入制度切り替え時以後、未納の方には、会報誌「ちぐさ」をはじめ同窓会からのご連絡が途切れています。

会費の納入をお願いいたしますとともに、ご友人にもお伝えいただければ幸いです。また年会費の方は、既定の振替用紙をご送金ください。

なお、昭和五十三年三月以降の卒業生は終身会費で納入しております。

同窓会千草会奨学生

二〇一九年度の同窓会千草会奨学生は、多数の応募者の中から選考委員会において、面接及び書類審査を行い、食物栄養科二名、国際コミュニケーション学科二名の計四名を選定し、六月二十日(木)に小林千春学長や三学科長、短大事務局長にご出席をいただき、奨学金授与式を行いました。

この奨学生は、二年生を対象に学業の継続に奨学生を必要とする学生の中から、勉学の意欲に燃え、かつ人物良好な方に支給するものです。同窓会千草会は母校の発展と人物育成のために、この支援を続けています。

この奨学生は、個人情報保護法により記載を控えさせていただきます。

昨年三月『ちぐさ』六十三号を皆様のお手元にお届けしてから、住所不明者として二百六十二通が戻ってきました。大変残念に思っております。毎号『ちぐさ』の誌面でもお願いをしておりますが、住所変更や改姓の折には、出身科・卒業回数または卒業年・クラスなどを書いて、同窓会事務室まではがき・FAX・メールでご連絡ください。お電話でのご連絡は、間違いの原因にもなりますのでお控えください。

なお、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。

ちぐさ編集委員会からのお願い

『ちぐさ』に対する皆様のご意見やご要望をお聞かせください。

学校のこんなことが知りたい、こんな記事を望んでいる、また「人物紹介」欄、「お便りコーナー」欄についても、このような方がいらっしゃるなどのご紹介や情報を是非お寄せください。

編集委員会では今まで知りうる限りの方々に執筆をお願いしてきましたが、多くの同窓生がいらっしゃるにも関わらず、情報が少なく苦慮しております。できるだけ多くの皆様を掲載し、ご紹介させていただきたいと考えております。自薦、他薦を聞いてみせんので、よろしくお願いいたします。

ご連絡は手紙、FAX、メールなどで、同窓会事務室宛(上記記載)にお願いいたします。なお、ご自身の出身科・卒業年・連絡先も併せてお知らせください。

多くのご意見や情報をお待ちしております。

ホームページ <http://www.toita.ac.jp/>

田澤恭二先生

司書過程を開設した平成七年に専任教員として勤務され、平成十四年三月まで、図書資格に関する専門科目をご担当くださいました。毎年『ちぐさ』をお送りしていましたが、必ず直筆での心のこもったお札状をくださりました。

菊地一麿先生

被服科・服飾芸術科、生活科非常勤講師として、昭和五十二年四月から平成二十一年三月まで三十一年間、ご専門の陶芸をご担当くださいました。

個性的な作風で多くの展覧会で受賞されました。また銀座の「和光」で十一年間個展も開催し、ご活躍されておりました。

上原君江先生

食物栄養科非常勤講師として、平成十二年から十九年まで専門科目の「看護・介護論（後に科目名を変更し、介護・看護）」をご担当くださいました。

心よりご冥福をお祈り申しあげます。

ちぐさ編集委員一同

永眠者

平成31年・令和元年に亡くなられた方
三宅 正子 (高木) 中等教員養成科42回
榎本 久子 (大曾根) 洋裁専攻科17回
兼子 ハル (兼子) 洋裁専攻科22回
大熊 恵 (川口) 英文科42回
及川 直美 被服科37回
山崎 雅代 (浅野) 生活科11回

●令和2年1月末までにご連絡をいただいた方

菅家八重子 (酒井) 中等教員養成科51回
富谷喜代子 中等教員養成科51回
川口ふみ子 (林) 速成科60回
山口 文子 (唐橋) 速成科70回
山崎 千代 (山崎) 高等師範科17回
坂本 鈴江 (田中) 高等師範科20回
上野ヨシ子 (田崎) 高等師範科24回
上坂 道子 (板倉) 高等師範科27回
伊奈 ふじ (斎藤) 高等師範科29回
渡辺ミツ枝 (田中) 高等師範科33回
土本エイ子 新設家政科5回
大和田最子 (大越) 新設家政科11回
藤田 松江 (久保) 英文科31回
西宮 良重 (安藤) 被服科第二部1回
椎名きみ子 (坂本) 被服科4回
平松 美子 (小野) 被服科12回
高井 信子 (殷) 被服科27回
桑波田真理 被服科45回
真嶋 隆子 生活科22回

編集後記

正会員になられた皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様のご活躍をご健康を祈念いたします。

小林学長はじめ、各学科長が教育改革の取り組みについてお書きくださいっています。英語教育の改革、多様な履修モデルの提供、自分の考えをきちんと伝えるためのプレゼンテーション能力の養成、ボランティア活動への積極的な参加など、常に学生の卒業後を見据え、二年間でいかにスキルアップし、社会に送りだすか、ご苦労も多いと存じます。また事務局長も栄養士の就職先の多様化や生涯活かせる技術の習得と活用例を、ほのぼのとしたご家庭のお話を通して披露してくださいました。まさにその場所で生き生きとご活躍されてる姿に心から敬意を表します。それは、まさに十二月にアフガニスタンで志半ばで命を絶たれてしまわされた中村哲先生の「照一隅」に通じるのではないかでしょうか。益々のご活躍を応援いたします。

二〇一九年度は四支部で支部会が開催されました。日程、会場決定、会員さんへの連絡等々、開催までの支部役員さんのご苦労にお礼申しあげます。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

昨年の晚秋の頃、二月二日に行われた千草会三代会長辻本治代先生の十三回忌のお知らせをいただきました。月日の流れの早さを噛みしめながら、いつも誠実で真摯にお仕事に向かっていたお姿が思い出され、我が身を省みながら改めて先生を偲びました。

TOITA Fesやちぐさ編集会議の際、同窓会室に出向いています。在学生の親切、丁寧な対応やキラキラした笑顔を見ることができ、心温まるひとときです。皆様もお時間がありましたら、校舎を訪れてみませんか？ 今号から全員カラーになり、明るく華やかでより興味をもつてお読みいただけると思います。原稿をお寄せくださいました同窓生の皆様ありがとうございました。感謝いたしました。

心よりご冥福をお祈り申しあげます。

ちぐさ編集委員一同

卒業生や企業との「つながり」が戸板の新たな学びに!!

同窓会千草会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

教職員一同、「魅力ある戸板女子短期大学」づくりに取り組んでいます。

[2019年の活動報告]

学生ボランティア団体 「TOITAアンバサダー」

学生ボランティア団体「TOITAアンバサダー」発足。
主に港区と地域連携の交流活動を行っています。



麻布十番納涼まつり



スポーツ&フラワーフェスタ



わんぱく相撲港区大会

東京タワー台湾祭

Jリーグ「横浜FC」と 産学連携パートナーシップ締結

Jリーグチーム「横浜FC」と産学連携パートナーシップを締結しました。各学科でプロフェッショナルな現場での社会経験や企画を進めていきます。

今年度は食物栄養科の学生考案のメニューを選手に提供しました。



服飾芸術科

(株)アダストリア「ヘザー」の プロモーション動画の作成にチャレンジ

(株)アダストリアのファッショングループ「ヘザー」のプロモーション動画の作成企画に取り組みました。チームに分かれて動画撮影・編集、プレゼン準備を行い、貴重な経験を通じて多くのことを学ぶことができました。

食物栄養科

(株)ダイヤモンドダイニングと クリスマス限定メニューを開発

(株)ダイヤモンドダイニングが運営する「古城の国のアリス」のメニュー開発企画に取り組みました。最優秀賞に選ばれたメニューの企画案を基に、実際にクリスマス限定メニューとして販売され、メニュー開発の楽しさ、難しさを学ぶ機会となりました。



国際コミュニケーション学科

東京都港区と外国人観光客向けの アートプロジェクトを企画

港区の観光地を色をテーマに表現する企画に取り組みました。
学生ならではの視点で、新しい港区の魅力を発信することが期待され、あらためて港区の良いところを再確認できました。



パスポートケース制作

ご卒業生の皆様、在学生応援のために企業連携やOG訪問にご協力ください

企業連携やOG訪問にご協力頂ける方はお気軽に下記までご連絡ください。

●お問い合わせ・お申し込み

短大事務局

TEL 03-3452-4161 (代表)

入試・広報部

TEL 03-3451-8383 (直通) 金井・瀧谷

E-mail ao@toita.ac.jp

『ちぐさ』第64号

編 集 ちぐさ編集委員会

発 行 日 2020(令和2)年3月10日

発 行 者 東京都港区芝2-21-17

戸板女子短期大学同窓会

千草会

TEL 03-3452-4169 (直)
FAX

ホームページ
<http://www.toita.ac.jp/>

制作 エックスデザイン株式会社

CHIGUSA

